

# Newsletter

—学会会報—

The Japanese Society for Curriculum Studies

発行：日本カリキュラム学会事務局

## 目 次

〈理事会報告 (2023 年 11 月 20 日)〉

■ 審議事項

I 第 33 回大会 (名古屋大学 web 大会) の大会報告及び収支決算報告

II 次期大会 (第 34 回大阪教育大学大会) について

III 各種委員会の活動について

IV 学会業務の委託について

V その他

■ 報告事項

VI 事務局報告

VII その他

〈第 33 回大会 (名古屋大学 web 大会) (2022 年 7 月 8 日・9 日) の報告〉

〈日本カリキュラム学会 第 13 回研究集会のお知らせ〉

〈事務局からのお知らせ〉

---

## 理事会報告 (2022 年 11 月 20 日)

---

定例理事会が、2022 年 11 月 20 日 (日) 10 時から 13 時 10 分まで、Zoom を用いたウェブ会議形式で開催された。事務局 3 名を含む 27 名 (うち理事 25 名) の参加があった。

審議に先立ち、松下代表理事より、開会に関する挨拶ならびに充実した名古屋大会の円滑な開催に対する御礼が述べられた。

■ 審議事項

I 第 33 回大会 (名古屋大学 web 大会) の大会報告及び収支決算報告

柴田理事 (第 33 回大会実行委員会事務局長) より、資料に基づき、報告があった。

まず、オンライン開催の運営方法、参加者数、自由研究発表および優秀発表賞、課題研究、シ

ンポジウム、自主企画セッションの概要についての報告と、円滑な運営への協力に対する御礼が述べられた。

次に、資料に基づき、収支決算報告書の内容についての説明がなされた。審議の結果、報告の通りにて進めることが承認された。

## II 次期大会（第 34 回大阪教育大学大会）について

木原理事（第 34 回大会実行委員会委員長）より、資料に基づき、報告があった。

まず、大会日程（2023 年 7 月 8 日（土）、9 日（日））、会場（大阪教育大学天王寺キャンパス）、シンポジウムのテーマ案（「ダイバーシティとカリキュラム」）についての確認がなされた。

次に、8 月 10 日に第 2 回大会実行委員会が開催されたこと、そこでは、大会までのスケジュールの確認およびシンポジウム登壇者の検討が行われたことが報告された。

続いて、10 月 16 日に、オンラインにて、大会校引き継ぎが行われたことが報告された。さらに、11 月 10 日に、オンラインにて、委託候補業者（ガリレオ）との協議が行われたことが報告された。

本件と関連して、学会運営事務をガリレオに委託予定のため、大会事務と一元化して効率化を図ることを目的として、第 33 回大会まではコームラに委託していた大会事務業務の一部を、新たにガリレオに変更すること、委託予定業務として、「大会 Web ページ作成・運営」「参加登録・自由研究発表登録」「シンポジウム Web 配信補助」「プログラム印刷発送」「発表要旨作成、大会 Web ページでの掲載（発表要旨集は冊子を作成せず、PDF での Web 掲載としたいこと）」を検討、折衝中であることが報告・提案された。審議の結果、提案の内容に沿って進めていくことが確認された。

加えて、ガリレオの会員管理システム運用開始が 4 月 1 日になるため、例年は 3 月中旬に行われていた参加・発表申し込みの開始日程が、4 月 1 日以降の開始にならざるをえないと考えられることが報告された。本件について、大会業務の委託のみを 3 月開始のかたちで行い、現在の学会業務委託先である国際文献社と連携を図って進めていただくという案や、ガリレオへの業務委託開始時期を 3 月からに前倒するという案などが出された。これらの案もふまえて審議した結果、大会の申し込み等に関する学会員へのアナウンスは早めに行い、参加申し込み自体は 4 月 1 日以降に開始するかたちで進めることとなった。あわせて、発表申し込みの要件となる「当該年度（2023 年度）の年会費の納入」の案内配付時期についての確認があった。業務委託の関係上、4 月 2 日、3 日あたりに案内配付がなされ、発表希望者は年会費の納入を経て発表申し込みを行うかたちになるため、スケジュール的には少々タイトになること、また、新たに年会費のクレジットカード決済の導入を検討しており、それが可能であれば会費納入がスピーディーに進められるようになるのではないかという点が確認された。

また、これまでは、学会運営業務と大会運営業務とを切り分けてそれぞれに別の業者に委託するというかたちで進められてきたが、今後はガリレオに一元化されることによって、手続きの簡素化や迅速化が期待できること、具体的な進め方については引き続き検討を進めることが確認された。

さらに、大会校より、公開シンポジウムのあり方（公開の範囲や参加費の徴収）について、理事会決定なのか大会校決定なのかを確認したいこと、および、大会校としては「公開（Zoom で配信）」かつ、シンポジウムのみへの参加の場合は無料としたいことが提案された。過去の開催方法等もふまえながら審議を行った結果、本件については理事会決定とすること、次期大会につい

ても公開かつ無料とすることとなった。

これまでの対面開催において行われてきた当日参加者への対応についても、議論が行われた。当日参加者については、シンポジウムのみに参加される場合については無料のため特段の手続きなく参加いただくこと、課題研究等、有料のプログラムへも参加される場合には、当日会場に専用の端末を設置しておき、その端末で（あるいは、参加希望者が自身の端末を利用可能であればそれを利用して）クレジットカード決済を行っていただくというかたちで進めることとなった。

学会運営業務と大会運営業務とがガリレオに一元化されること、また、ガリレオが提供するシステムの特性をふまえ、大会専用の Web サイトを作成するのか、学会員のマイページの中で大会の情報発信を行うのかという点や、発表者の発表資料のアップロードの方法などについて検討を行うことの必要性が確認された。本件については、大会校と事務局を中心にガリレオとの協議を行いながら進めていくこととなった。

### III 各種委員会の活動について

#### 1. 学会賞委員会

小柳学会賞委員長が所用により欠席のため、安藤副委員長より、資料に基づき報告があった。

まず、研究奨励賞の審査の経過報告がなされた。候補者が 2 名であったこと、それぞれの候補者に関する推薦理由、今後の審査の手続き等についての報告がなされた。

次に、優秀発表賞の審査の経過報告がなされた。10 月 6 日にオンライン会議のかたちで、10 月 27 日から 11 月 4 日にかけてメール審議のかたちで、2 回の審査委員会が開催されたこと、および、そこでの審議事項の概要と候補者 2 名の研究内容ならびに推薦理由が報告された。審議の結果、提案の通りに進めることとなった。

あわせて、優秀発表賞の審査について、現在の細則には、第 1 著者の資格のみに触れているが、共同研究者がすべて資格ありの場合などもあるため、共同研究の場合、その構成メンバーなどの条件（すべて資格ありの場合、その発表も候補に入れることができるなど）などについては明確にする必要があるという点が提案された。本件については、引き続き検討を行うこととなった。

審査に際して、主として受賞候補者と審査者との利益相反の関係で、審査委員の選定や審査方法に関する検討事項が見られたことについても意見交換がなされた。本件については、今後、学会賞委員会を中心に検討を進めることとなった。

#### 2. 紀要編集委員会

磯田委員長より、資料に基づき、報告があった。

まず、10 月 9 日（土）13 時から 16 時まで Zoom により第 1 回紀要編集委員会が開催されたこと、『カリキュラム研究』第 31 号の編集の工程（編集スケジュール、第 31 号の構成と執筆担当、投稿論文の投稿数や審査対象論文の内訳、査読候補者の選定、査読スケジュール、原稿の締切など）に関する報告ならびに協力依頼がなされた。

続いて、『カリキュラム研究』のオンライン投稿・査読システムの導入に関する報告と提案がなされた。まず、9 月 1 日（水）13 時～15 時に、Zoom にて、オンライン投稿・査読システム導入ワーキンググループの会議が開催されたことが報告された。次に、オンライン化を行うことの重点を「手続きの簡素化、合理化、確実な手続きの実施」に置きながら検討を進めていること、ならびに、現行のシステムと新システムにおける変更事項に関する案（編集規程、投稿要領、投稿にあたっての注意事項、査読についての内規（業務内容に関する引き継ぎ資料））が示された。資

料の内容が重要かつ多岐に渡ることから、理事会後に各理事の方で資料を検討し、気づいた点などがあれば紀要編集委員会に申し出ること、紀要編集委員会ではそこで出された意見もふまえながら検討を進めることとなった。

紀要編集委員の査読プロセスへの関与について、「匿名性の確保」「公平性の確保」の観点から、どのように進めることが適切なのかについて今後さらに検討を進めることの必要性が確認された。特に、「多くの『弟子』を抱える研究者」「研究を活発に行っている中堅研究者」「チームを組んで研究を進めている研究者」などが査読者になることの難しさをどのように捉え、対応していく必要があるのかについての検討の必要性が確認された。

### 3. 国際交流委員会

澤田委員長が所用により途中退席をしなければならなかったため、倉本副委員長より、資料に基づき報告があった。

まず、11月2日から11日にかけて、「海外カリキュラム研究情報」と「来年度大会課題研究」に関するメール審議を行ったことが報告された。

次に、2023年度学会紀要「海外カリキュラム研究情報」については、米国のキャサリン・ルイス氏（Mills College in Oakland, California）を第1候補者として進めること、ルイス氏が難しい場合には吉田誠氏（William Paterson University）、高橋昭彦氏（DePaul University）を候補者として進める予定であることが報告された。

さらに、2023年度大会（第34回大会）課題研究の企画について、「インクルーシブ教育をめぐるカリキュラム研究の今後の展望する（仮）」を検討していること、ならびにその趣旨（案）および報告者（案）が提示された。これに関して、大会校である大阪教育大学で企画しているシンポジウムの内容との関連が想定されるため、できるだけ重なりを小さくするかたちで内容等を検討することの必要性が提案された。また、インクルーシブ教育に関して、先行研究の結果から、ニーズのある子どもに対して健常児と同様のカリキュラムで対応しようとしている点に課題があるという指摘がなされていることが共有され、こうした視点も意識しながら企画を進めることの必要性が提案された。本件については、これらの点もふまえながら、国際交流委員会の中で検討を進めることとなった。

### 4. 研究委員会

上地委員長より、資料に基づき、報告があった。

まず、「研究集会2022」ならびに「日本カリキュラム学会第33回名古屋大学web大会における課題研究」の企画・実施に関する報告がなされた。

続いて、第33回大会以降の活動について、2021-2022年度の第1回研究委員会を10月中旬～下旬にメール会議で、第2回研究委員会を11月3日にZoomで実施し、春の研究集会と2022年大会の課題研究のテーマについて検討したことが報告された。

研究集会については、「2023年3月5日（日）の午後」に開催すること、テーマを「LGBTQを教育課程にどう位置づけるか（仮）」とすること、実施については広島大学での現地開催かつオンラインを併用するかたちを想定していることが提案された。審議の結果、「2023年3月5日（日）の午後」に開催すること、理事会の日程とは連動させないかたちで進めることが確認・決定された。

2023年度大会（第34回大会）課題研究の企画については、「道徳の教科化の功罪（仮）」「カリキュラム・マネジメントの実質化における現状と課題 — インクルーシブと子どもの参画の視点

から（仮）」を検討していることが報告された。特に後者の企画に関して、カリキュラム・マネジメントの理論に関する学会としての議論の必要性、ならびに、国際交流委員会が提案しているインクルーシブ教育に関する課題研究との棲み分けについて議論することの必要性が提案された。本件に関して、研究委員会より、登壇者のお一人に研究的な動向や潮流についての整理と提案を行っていただき、残りのお二人の登壇者にはカリキュラムの実質化を行う際の論点や観点についての提案を行っていただいたうえでディスカッションを行うというかたちで進めることが想定されていること、したがって、国際交流委員会の企画内容との棲み分けは可能であると考えられることが説明された。以上の議論もふまえて、研究委員会ならびに国際交流委員会のそれぞれで、企画内容の検討を進めていくこととなった。

## 5. 広報・若手育成委員会

根津委員長より、資料に基づき、報告があった。

まず、10月9日のZoom会議、ならびに適宜のメール会議を行ったことが報告された。

次に、11月23日に開催される「秋のセミナー2022」について、概要や参加申し込み状況などが報告されるとともに、理事各位に対する参加依頼がなされた。

続いて、2023年度大会（第34回大会）課題研究の企画「カリキュラムの『不易と流行』を語るIV」について、長尾彰夫元代表理事からの内諾済みであること、および、2021、2022年と同様の方向で検討を進めることが報告された。長尾元代表理事以外の登壇者2名の人選を進める必要があることが報告された。

さらに、委員会体制（広報と若手育成との分担）について、現在ややオーバーワーク気味になっているようにも感じられるため、来期には副委員長を2名体制として分業することの必要性が提案された。

また、登壇者への派遣申請ならびに謝金の支払いに関して、登壇者の所属先（今回の場合は、文部科学省や教職員支援機構）の規定等をふまえながら支払いの可否等の判断を行うことの必要性が提案された。本件については、謝金の受け取りを強要するものではなく、あくまで登壇者の状況に応じて登壇者自身に決定いただく性質のものであるということ、および、その方針で手続きを進めていることが報告された。あわせて、謝金の支払い・受け取りについては様々な企画に関して生じる案件であるため、それぞれの場面で適切に対応することの必要性が確認された。

## 6. 2023年度大会（第34回大会）のスケジュールについて

2023年度大会（第34回大会）で行われる4つの課題研究の割り振りについて議論が行われた。議論の結果、研究委員会が企画する2件を1日目と2日目に割り振ること、および、4件すべての割り振りについては、各委員会のコーディネーター同士で相談のうえ、各企画の登壇予定者のご都合も勘案しながら決定していくことが確認された。

## IV 学会業務の委託について

二宮事務局長より、2023年度からの業務委託先をガリレオに変更するかたちで調整を進めていることが報告されるとともに、委託費用について概算見積書の内容が説明された。

続いて、資料に基づき、今後の業務委託に関するスケジュールや対応すべき案件などについての説明がなされた。加えて、理事会で議論・決定すべき以下の検討事項についての相談がなされた。

➤ 会員情報の追加について

入会時に届け出られた会員情報については、新システムにも反映されることになっているが、それに加えて査読者選定のために研究分野に関する情報を新たに会員に追記してもらいたい。4月1日に予定されているガリレオからのリリース案内に「会員情報の追記のお願い」を同封してもらおう。研究分野の追記については、「会員に研究キーワードを追記いただく」「学会側で領域やテーマ、キーワードの候補を選定してその中から選択していただく」という案がある。

本件について審議を行った結果、キーワード等が煩雑になりすぎるのを防ぐことや査読者選定に利用しやすいかたちで情報を整理することの必要性に鑑みて、「学会側で領域やテーマ、キーワードの候補を選定してその中から選択していただく」かたちで進めることとなった。加えて、キーワード等の選定を事務局と松下代表理事で進め、次回の理事会に原案を提案して理事会で議論・決定することとなった。

➤ 会費のクレジット決済について

会費のクレジット決済を可能にすることで会員の利便性は向上するが、手数料(2~3%)は学会負担となるため、会費収入が減少(150円×700名で10万円程度)することになる。一方、クレジット決済にすることで会費納入に伴う事務が簡素化されるので、その分の経費は削減できる可能性がある(4万円程度)。会費納入の領収書は会員ページからダウンロード可能になる。

本件について審議を行った結果、会員の利便性の向上と学会運営業務の簡素化の観点からクレジット決済による会費納入システムの導入を承認することとなった。

➤ 理事改選の規程について

オンライン選挙を実施するにあたり、第2条第2項「選挙による理事の選出は、全会員の無記名郵便投票による」への対応を考える必要がある。この点に関して、事務局からは、第7条の「本学会の役員選出に関する細目は、理事会の定めるところによる」との規程を援用し、オンライン投票の追加を理事会で承認してもらい、郵便投票との併用での選挙とすることを提案する。

本件については、重複投票を防ぐために、郵便投票を希望した方についてはオンライン投票ができないようにすることがシステム上必要になるのではないかという意見が出された。この点について事務局からガリレオに確認を行い、対応を進めることとなった。

➤ 理事選挙の案内

4月1日のガリレオからのリリース案内とは別に、選挙の案内を送付する。その中でオンライン投票へのお願い文章と共に郵便投票希望の調査を同封する。

本件については、提案の通り進めることとなった。

## V その他

特になし

## ■報告事項

### VI 事務局報告（後掲の「事務局からのお知らせ」を参照）

まず、二宮事務局長より、資料に基づき、「会員現況概要」「寄贈図書一覧」「会計途中報告」に関する報告がなされた。

次に、2024年度の大会校について、過去の大会の開催校および実行委員長・事務局長の一覧が示され、松下代表理事より、東京での開催を検討したい旨が提案された。本件については、松下代表理事より個別に依頼・相談を行いながら、検討を進めることとなった。

### VII その他

次回の定例理事会について、以下の要領にて開催する予定であることが確認された。

日時：2月18日（土）、2月19日（日）、2月27日から3月3日までの週の平日16時半頃からのいずれかで開催することとし、具体的な日時については改めて日程調整のうえで決定する。

※ 日程調整の結果、2023年2月18日（土）13時から15時30分に開催することとなった。

開催方法：Zoomを用いたウェブ会議のかたちで開催

---

---

## 第33回大会（名古屋大学 web 大会）（2022年7月8日・9日）の報告

---

---

文責：第33回大会実行委員会 事務局長 柴田 好章

日本カリキュラム学会第33回大会は、新型コロナウイルス(COVID-19)の感染拡大防止の観点から Zoom を活用したオンライン形式で、2022年7月9日(土)・10日(日)の日程で開催された。前年の第32回大会（琉球大学）に引き続いてのオンライン形式での開催になったが、琉球大学の方々のご尽力のおかげで前年のノウハウを継承し円滑に実施することができた。ZoomPro の100人までのアカウントを5口と500人まで2口を1か月間契約し、うち1口をウェビナー機能を付加して契約した。企画の実施自体に支障がでるようなネットワークトラブルはなく無事に終えることができたが、一部の課題研究におけるレコーディングのミスなど運営側の操作ミスがあった。また、開会期間中にヘルプデスクを Zoom で設け、URL・パスワードの質問などの6件の問い合わせに応じた。

参加者数は263名（正会員173名・学生会員31名・臨時会員37名・招待22名）であった。

自由研究発表では、43件の発表申込があり、2日間で12分科会が実施された。今年度から始まった「優秀発表賞」には、9件のエントリーがあった。なお、1件は事前連絡があり事情のため発表取り止めとなった。

課題研究は、例年通り4つのテーマで企画・実施された。

課題研究Iは、「いま、なぜ教育にSDGsなのか」というテーマで、及川 幸彦 氏（奈良教育大学）、中澤 静男 氏（奈良教育大学）、高橋 宏輔 氏（朝日学生新聞社）の3名が発表し、SDGs

を意識した教育活動が教育や学校教育という営みに対してどのような影響をもたらすかというマクロな観点から議論が行われた。司会・コーディネーターは、北尾 悟 氏（奈良女子大学附属中等教育学校）、上地 完治 氏（琉球大学）であり、上地氏は指定討論者も務めた。

課題研究 II は、「グローバル化時代の東アジアにおける教師教育カリキュラム・教育方法の開発」Development of Teacher Education Curriculum & Instruction in the Global Era of East Asia」というテーマで、Mohammad Reza Sarkar Arani 氏(名古屋大学)、Nguyen Nam Phuong 氏(The Hanoi National University of Education)、Chi-Keung Eric Cheng 氏(The Education University of Hong Kong)の3名が発表し、国際的視野から、学部・修士課程における「現職教員および教員養成課程」のための教師教育カリキュラム/プログラムについて議論が行われた。司会・コーディネーターは、Tetsuo Kuramoto 氏（静岡文化芸術大学）が務めた。初の試みとして、日英同時通訳で行われた。

課題研究 III は、「カリキュラムの研究・開発の専門性を育むカリキュラム—大学院と現場の育成論—」というテーマで、西岡 加名恵 氏（京都大学）、木原 俊行 氏（大阪教育大学）による2件の発表と、田村 学 氏（國學院大學）、黒岩 昭伸 氏（長岡市立富曾亀小学校）、井手 司 氏（福岡教育大学附属福岡小学校）の3名による合同の1件の発表からなる、計3件の発表が行われた。研究大学院、専門職大学院（教職大学院）、研究開発学校における「カリキュラムの研究・開発の専門性を育むカリキュラム」の課題と充実の方策・方向性が議論された。指定討論者は、村川 雅弘 氏（甲南女子大学）、コーディネーターは、草原 和博 氏（広島大学）と木原 俊行 氏であり、草原 氏は、司会も務めた。

課題研究 IV は、「カリキュラムの『不易と流行』を語る III —学校経営からみたカリキュラム研究—」というテーマで実施された。一連のシリーズでは、先輩研究者の方々に、その研究対象に対する思いや姿勢、配慮すべき事柄などを中堅・若手に語っていただき、中堅・若手研究者がその研究対象に関するかわり方や抱負等を述べ、協議を通して研究的な示唆を得ることを目的としている。今回は、学校経営や「カリキュラムマネジメント」の視点から、中留 武昭 氏（九州大学名誉教授）にご登壇いただき、大野 裕己 氏（滋賀大学）、吉田 尚史 氏（教職員支援機構）の発表が続いた。司会・コーディネーターは、富士原 紀絵 氏（お茶の水女子大学）、根津 朋実 氏（早稲田大学）であった。根津 氏は、中留 氏のオンライン発表の支援のために出張してくださった。

シンポジウムは、「教育の目的とカリキュラムの編成原理」というテーマで実施された。登壇者として江戸時代の思想と学びの研究者であり教育史がご専門の 辻本 雅史 氏（中部大学フェロー・京都大学名誉教授）と、本学会の創設に関わり、カリキュラムを学問分野として整えるとともに長年カリキュラムの編成に関わってこられた 安彦 忠彦 氏（名古屋大学名誉教授）をお迎えし、「<近代の知>を再生産してきた学校教育の知」とその伝達方法・メディア、それらの変遷と社会的背景を再考し、カリキュラム編成の精査につなげることで、次の時代のカリキュラムの編成原理を議論した。コーディネーターは、渡邊 雅子 氏（名古屋大学）であり、司会は、渡邊 氏と、生澤 繁樹 氏（名古屋大学）が務めた。

また、大会2日目の最後の企画として、自主企画セッションが開催された。石田 智敬 氏（京都大学大学院）の企画による「ライティング（書くこと）の評価はどうあるべきか—重要性と困難性のジレンマ—」と、早瀬 博典 氏（筑波大学大学院）、玉井 慎也 氏（広島大学大学院）、鈴木 草堂駒 氏（名古屋大学大学院）、岡村 亮佑 氏（京都大学大学院）の企画による、「カリキュラム研究者を目指す学生・大学院生の集い—With コロナの時代に若手会員はいかにカリキュラム研究に向き合ってきたのか—」の2件の企画が実施され、遅い時間まで活発に議論が行われた。



---

# 日本カリキュラム学会

## 第13回 研究集会のお知らせ

---

代表理事: 松下 佳代  
研究委員会委員長: 上地 完治

### テーマ:

<性の多様性>を教育課程にどう位置づけるか

### 趣旨:

性的指向や性自認に関する<性の多様性>は、個別的な配慮や支援にとどまらず、より適切な生徒指導・人権教育等を通して積極的に取り扱うことが要請されてきた（文部科学省『性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について（教職員向け）』2016年）。

では、カリキュラム研究者は本テーマをどのように引き受け、向き合っていけばよいのだろうか。また、学校の教育課程に本テーマを位置付けて指導しようとするとき、どのような課題・困難が生じてくるのだろうか。このような論点に先進的に取り組む研究者にご報告いただき、参加者と協議することで、これからの研究と実践に示唆を得たい。

### 日時:

2023年3月5日（日）13時30分～16時00分 ※13時20分頃から入室可。

### 場所:

ハイフレックス（広島大学教育学部第3・4会議室／オンラインウェビナー）

対面会場には原則として50名を目途に受け入れます。

状況次第では全面オンラインに切り替えることもあります。

### 報告者:

(1) 社会学（ジェンダー・セクシュアリティ）の研究の成果から

眞野豊（鳴門教育大学）

「<性の多様性>を教育課程にどう位置づけるか」

(2) 教科教育に関する研究の成果から

川口広美（広島大学）、岩田昌太郎（広島大学）、村田一朗（大垣市立北中学校）、

白石愛（福山市立鷹取中学校）、小栗優貴（愛知教育大学）

「<性の多様性>についてどのように授業実践していったか

—社会科と保健体育科の共同開発研究を通して—

### コーディネーター・司会:

木原俊行（大阪教育大学）、草原和博（広島大学）、橋本美保（東京学芸大学）

### 参加費:

無料（学会員でない方もご参加いただけます）

## 参加申込

参加希望者は、対面オンライン共に、[こちらの URL](#) から参加申込を行って下さい。  
3月4日（土）18時を締め切りとします。オンライン参加者には3月4日までに接続に必要な情報がメールで送付されます。届かない場合は、「迷惑メール」のフォルダに入っていないかご確認ください。

---

---

## 事務局からのお知らせ

---

---

### 1. 会員現況報告（2022年11月7日時点）

■会員総数 710名（一般会員630名、学生会員73名、団体会員7件）

※連絡先不明者6名、未納退会希望者3名、会員資格一時停止者27名を含む。

【内訳】（入会者・退会者は2022年11月7日以降の報告）

新規入会者：7名

退会・強制退会者：0名

一時資格停止者：27名

連絡先不明者：6名

2022年度からの新入会者：26名 （一般：18名、学生：8名、団体：0）
--

■会費納入率（2022年10月27日時点）

2022年度：完納556名 未納127名 計683名 81.4%

2021年度：完納637名 未納20名 計657名 97.0%

※連絡先不明者6名含む、会員資格一時停止者27名除く。

■新規入会者（2022年6月28日～2022年11月7日）7名

	入会年月日	氏名	所属	区分	推薦者
1	2022/7/5	中原 智昭	所属非公開希望	学生会員	事務局
2	2022/7/4	片山 裕吾	所属非公開希望	一般会員	兵藤 清一
3	2022/7/23	植原 督詞	伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校	一般会員	渡部 竜也 (東京学芸大学)
4	2022/8/3	安藤 和久	広島大学	学生会員	事務局
5	2022/9/12	梅津 静子	所属非公開希望	一般会員	事務局
6	2022/9/14	藤井 佑介	所属非公開希望	一般会員	事務局
7	2022/9/22	岡田 航平	所属非公開希望	学生会員	田中 孝平 (京都大学大学院)

※入会年月日は、入会金の振り込みがあった日付になります。会員番号は入会申し込みが届いた日になります。上記の順番は会員番号順です。

■退会者（2022年6月28日～2022年11月7日）0名

## 2. 寄贈図書一覧（2022年7月1日～2022年11月17日到着分）

著者名	タイトル	出版社等	発行日	受領日
石井英真、河田祥司 (著)	GIGA スクールのなかで教育の本質を問う：子ども主語の学びと現場主語の改革へ	日本標準	2022/4/10	2022/8/19
石井英真 (著)	高等学校 真正(ほんもの)の学び、授業の深み：授業の匠たちが提案するこれからの授業	学事出版	2022/8/31	2022/8/19
川地亜弥子 (著)	子どもとつくるわくわく実践：ねがいひろがる教育・保育・療育	全障研出版部	2022/8/31	2022/9/25
秋山仁、浅沼茂、奈須正裕 (編著)	思考力を育む教育方法	黎明書房	2022/9/15	2022/10/5
石井英真、仁平典宏、濱中淳子、青木栄一、丸山英樹、下司晶 (編)	教育学年報 13 情報技術・AIと教育	世織書房	2022/8/31	2022/10/5
田村知子 (著)	カリキュラムマネジメントの理論と実践	日本標準	2022/10/22	2022/10/12

## 3. 会計途中報告（2022年4月1日～2022年10月30日）

### 収入の部

項目	予算額 (円)	実績 (円)
学会年会費	5,000,000	4,372,000
入会金	80,000	52,000
学会誌代・雑収入・利子等	50,000	33,017
第33回大会収入(除く補助費)	700,000	690,000
寄付	0	0
前年度繰越金	10,142,247	10,142,247
合計	15,972,247	15,289,264

### 支出の部

項目	予算額 (円)	実績 (円)
第33回大会補助費	0	0
第33回大会支出(除く補助費)	2,100,000	1,806,577
第32号紀要刊行費(含む発送費)	700,000	35,200
学会研究奨励賞費	50,000	50,000
会合費(交通費他)	1,300,000	0
事務局経費	150,000	69,333
事務局外部委託費	1,600,000	1,299,511
ホームページ委託運用費	250,000	52,800

財) 日本学術協力財団賛助会費	50,000	50,000
教育関連学会連絡協議会会費	10,000	10,000
各種委員会経費		
紀要編集委員会	100,000	38,246
国際交流委員会	100,000	0
研究委員会	300,000	0
広報・若手育成委員会	300,000	0
学会賞委員会	100,000	0
(小計)	900,000	38,246
理事・代表選挙経費	300,000	0
学会業務の ICT 化のための経費	1,500,000	
予備費	200,000	0
次年度繰越金	6,862,247	11,877,597
合計	15,972,247	15,289,264

#### 4. 令和4年度(2022年度)分会費納入のお願い

今年度分の年会費が未納の会員の方は、納入をお願い申し上げます。2022年10月27日時点での2022年度会費の納入率は81.4%です。納入促進に、会員のみなさまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

また、前年度(2021年度)分までの年会費が未納の会員の方におかれましては、未納分の年会費の納入もあわせてお願い申し上げます。

会費納入状況につき、ご不明の点がございましたら、ご遠慮なく(株)国際文献社内・日本カリキュラム学会会員窓口までお問い合わせください。

(年会費：一般 8,000円、学生 5,000円、団体 10,000円)

#### 【 入・退会、年会費納入、会員 web 管理、会報発送等各種問い合わせ先 】

〒162-0801

東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター (株) 国際文献社内

日本カリキュラム学会会員窓口

Tel : 03-5389-6213 Fax : 03-3368-2822

E-mail : jscs-post@bunken.co.jp

#### 【 上記以外の学会運営に関する問い合わせ先 】

〒640-8510

和歌山市栄谷 930 和歌山大学教育学部 二宮衆一気付

日本カリキュラム学会事務局

E-mail : jscsstaff@gmail.com

※ 2022年4月1日をもって、学会事務局のメールアドレスを変更いたしました。

#### 【 学会ホームページ 】

URL : <http://jscs.b.la9.jp/>